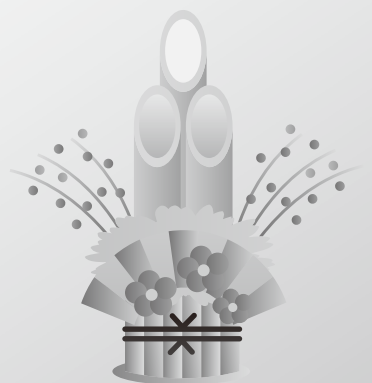


# 広告

# 市民力、民間力を結集し、

## 活力あるまちに



あけましておめでとうございます。  
市民の皆さまには、健やかに新年をお迎えのことと  
心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、これからの石狩市の発展に期待が深まる、光明の年となったと感じております。

4月には市としては全国初となる手話基本条例を施行しました。この条例は多くの方の思いとご協力のもと制定され、「言語である手話を使って心豊かに暮らす」新しい社会モデルを示す契機ともなりました。市内各所にて手話講習会が開催され、多くの市民参加のもと手話への理解が深まったことは、バリアフリー社会への確かな歩みとなっております。

また、石狩湾新港が国際貿易港として指定されてから20周年を迎え、6月の記念式典をはじめ、8月の「産業見本市」「まるごとフェスタ」には2日間で約10万人のご来場をいただきました。ご協力いただいた市民ならびに企業の皆さまにあらためて感謝申し上げます。

本年は新市誕生から10年、そして第5期

総合計画がスタートする年でもあります。厚田区、浜益区は人口減少や高齢化が急速に進んでおりますが、厚田区では地域の拠点づくりを進めることにより、住民が集い、親しみ、さらには観光客を呼び寄せるための検討が始まり、そして浜益区では地元食材を活用した新たな加工食品による6次化産業の取り組みが行われております。昨年からは両区に「地域おこし協力隊」も加わりました。さらなる地域資源の掘り起こしを進めてまいりたいと思えます。

年末には安倍政権が推進してきた政策の是非を問う国政選挙が行われましたが、消費税増税の延期によって生じる社会保障費などの財源不足をどうするのか、明確な方針が示されないまま、地方創生元年を迎えました。

これまで、分散型エネルギー施策や環境施策など、地域資源と地域力を生かし、先進的な取り組みを進めてきた本市にとりまして、「地方創生」を追い風として捉えるかどうかは私たち自身の課題であります。

本市にはまだまだ潜在している市民力、民間力があると確信しています。それらの力を結集し、創意工夫を持つて政策を展開し、活力ある地域社会の構築に取り組んでまいりたいと思えます。

結びに、新春の門出にあたり、市民の皆さまのご多幸とご健康をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成27年 新春

石狩市長